



なすびの花

部品表について

日々の業務の中で、部品表が、生産指示書や製造指示書に反映され、部品の管理や生産の管理、検査の管理を行っています。

ここ何年かの間に、社内外で『部品表』のことを『BOM』と言われることが多いので、ただ恰好つけて横文字で表しているだけかと思っていたのですが、調べてみると、紙ベースの部品表ではなく、様々な部門での目的に合った部品表を、一元管理できるシステムが『BOMシステム』というもので、このシステムが浸透するとともに、『部品表』の代わりに『BOM』と呼ぶことが多くなってきたと思われます。

『BOM』とは、『Bill of Materials』の略で、私たちのような製造業の現場で使われる部品表のことを指します。

製造現場や検査業務では、紙ベースで仕様確認などを行うのがとても便利で使い勝手が良いですが、この部品表を効率よく管理するために、我が社でもオリジナルのBOMシステムに移行できるように開発が進められているところです。

先ほども書いていますが、このBOMシステムが完成すると、設計部品表、製造部品表などを一元管理でき、管理業務を最適化できるようになります。

もちろんこの部品表は最新版を管理部門で、都度更新してあることが前提としてあります。

さて、この2年間ほど、新型コロナウイルスによるパンデミックの影響もあり、半導体やその他、色々な材料が世界で不足しています。

我が社でも影響を受け、部材の手配については資材課・業務課で、大変な苦勞をしている状況です。

毎週の製造会議や、毎月の品質環境会議の中では、品薄でなかなか手に入りづらい部品などについて、代替品を探していることや、代替品でも製品が問題なく使用できるかの検証がされている、といった報告が聞かれます。

そして、新規採用部品については、都度検討され、トレーサビリティを確実にを行うために、速やかに現場の部品表や払い出し表に反映する必要があります。

生産の現場からは見えにくい部分ですが、正確な生産を行うために、とても重要な部分です。完成するのが楽しみな、我が社オリジナルのBOMシステムの運用が開始されると、部品表や払い出し表の作成・部品の変更など、管理担当者は、確実な作業が簡単にできるようになるでしょう。

正しく生産が行えるように、社内の全部門が協力しているということが、くつきりと浮かび上がりますね。

災害への備え

近年、30年以内に高確率で発生すると言われていた南海トラフ地震について、よく目にします。

恥ずかしながら、この南海トラフ地震についてよく理解できておらず、過去に何度も起こっていることについて最近知りました。

直近の南海トラフ地震が、1946年の昭和南海地震なので、そこから今年で76年目です。

大体100年〜150年間隔で、津波を伴い発生しているということなので、早ければあと20数年程で起こると予測されています。

社内でも、大規模地震に備えて、より見やすく改訂された行動手順が各部署や工場内随所に掲示されました。

就業中の被災を想定し、備蓄品や細かい連絡体制についても順次準備されています。

自宅での災害対策ですが、日本でしっかりと準備していない人は、全体の6割も居るという情報を見ました。

皆さまはいかがでしょう。

私も今まで対策も備蓄も、あまり真剣にはしてなかったのですが、南海トラフ地震のシミュレーション映像などを見ているうちに本当に怖くなって、家の中の物を少しずつ整理し、備蓄品も少しずつ収集し始めました。

地震だけではなく、これから暖かくなって、夏から秋に向けては、風水害もやってきます。

自助のため、3日分、できれば1週間分の食糧や飲料・生活必需品などを家族の人数分準備し、いざという時に備えましょう。

マスコットキャラ名が決定しました

命名：猫衛門

猫衛門と書いて「にゃんえもん」です。

末永くよろしくお願いいたします！

ニャンダゴテを人に向けてはいけません



茄子左衛門

猫衛門